



神埼市の西九州大で

▶左から 森ゆうきさん、ヨフリナ・ガルトムさん、エスタ・カマウさん、ジャヤン・ドルジーさん



国際IC協会のボランティアメンバーと談笑する西九州大生ら＝神埼市の西九州大

国際交流で世界平和を

IC協会が西九州大を訪問

チベット、インドネシア、ケニア

文化や情勢語り合う

神埼市

国際交流を通じて世界平和を目指す団体・国際IC協会

(本部スイス)のボランティアメンバー4人が18日、神埼市の西九州大と佐賀市の弘学館中を訪問した。西九州大では社会福祉学科の生徒ら約20人と交流し、各国の文化や情勢を語り合い、お互いに理解を深めた。

メンバーはチベット、インドネシア、ケニア、日本出身の20〜25歳の4人。チベットのジャン・ドルジさんは、中国の統治下にあるチベットの情勢

や、焼身自殺をして抗議運動をする若者がいることなどを説明し、「そういう現状をなくすためにも、国際交流の大切さを訴えていきたい」と話した。

メンバーと学生らは

年齢が近いこともあり、意気投合し、交流サイト「フェイスブック」で今後もやりとりを続けていこうと約束を交わしていた。

交流は国際IC日本協会が、青少年の国際理解を進めるため海外から若者を招待し、全国各地の学校などを訪問する事業の一環。メンバーは5月上旬から約2カ月間、学生や子どもたちと交流を深めている。(熊謙次朗)